令和４年度(2022 年度)夏季展示

めぐる・かわる・つながる –吹田の自然環境と生き物の移り変わり–

藤田和則・天野正夫・筏隆臣・井藤幸子・内田正雄・内田陽造・奥山佳一・越智みや子・神原快司・地蔵利昭・度会雅敏・西尾昌・林暁子・檜田清治（吹田市立博物館 夏季展示実行委員会）、竹原千佳誉（吹田市立博物館）

はじめに

吹田市立博物館では、2006 年（平成 18 年）春に千里ニュータウン展を開催して以来、毎年、博物館の公募で集まった市民ボランティアが主体となって夏季展示の企画・設営・運営を行っています。おとなはもちろん、子どもたちにとっても楽しく、理解してもらいやすい展示を目指して取り組んでいます。

夏季展示チラシ（デザイン:中川愛子）

展示趣旨

COVID-19 によるパンデミックを経験し、人間中心主義の世界観が改変を迫られるなか、生きとし生けるものの「いのち」を再考するため、メンバーがそれぞれに課題を設定し取り組みました。地球温暖化の問題を宇宙から俯瞰する展示や、吹田の環境や生き物たち、私たちの生活など、身近なところで起きている変化、そしてそれらがどのようにめぐり、かわり、つながるのかを、マクロとミクロの視点を持って展示を考えました。

展示内容について

展示は大きく、「環境」、「生き物」、「人と食」３つの観点から構成されています。

展示室の入口では、タヌキとキツネ（はく製）がお出迎えします。タヌキやキツネは昔から千里丘陵でよく見られる身近な生き物でした。

展示室内へ入ると最初のコーナー【いま、地球と自然環境におこっていること】の展示が始まります。私たちが暮らす地球上では現在９つの深刻な環境問題が生じていること、これらの原因が 19 世紀の産業革命から現在までのとても短い期間内で、科学技術によって人間が自然環境をコントロールすることで生じたものであることを、地球 46 億年の歴史を 365 日に置き換えて表現した地球史カレンダーや動画[1]を交えて解説しました。

展示室の構成

続いて【地球と大気圏】では、私たちをとりまく自然環境のうち「大気」の重要性や役割について、大気や水の循環を表現した模型や、この先も地球温暖化が進むとどうなるのかを予測した動画[2]を用いて紹介しました。

次のコーナーからは吹田の環境や生き物についての展示が始まります。【吹田の自然環境の成り立ち

1 全地球史アトラス　11 話「人類代～人類誕生と文明の構築」（企画・制作：文部科学省科学研究費補助金　新学術領域研究「冥王代生命学の創成」ELSI）

2 「2100 年 未来の天気予報」（企画・制作：環境省 COOL CHOICE）

と移り変わり】では千里丘陵の成り立ちや、環境の変化にともなってそこに生息する生き物たちも移り変わってきたことを概観し、続く【地元の川と池が語る―現在・過去・未来―】では吹田市域の 10 の川や池が参加してグループトークを繰り広げるという設定で、具体的に吹田市域の環境の移り変わりを紹介しました。

【吹田の在来種と外来種】では、吹田市域で見られる在来種と外来種の生息状況について標本資料を中心に解説するとともに、在来種と外来種、人間の三者がどのように共存していくべきかについて問いかける展示を行いました。あわせてエントランスでは、吹田市域や淀川水系で見られる在来種・外来種の生態展示も行いました。

また、吹田市の天然記念物であり、生物多様性の指標ともいえるヒメボタルの生態や保全の活動、吹田の原産種である吹田くわいについても紹介し、地域の生き物や環境特性について理解を深めてもらう展示を目指しました。

最後のコーナー【人と食、自然環境のかかわり】では、私たちの暮らしと環境が密接に関わっていることについて「食」を切り口に展示を行いました。私たちが普段何気なく食べているスパゲティミートソースの材料を入手するためにどれだけ環境への負荷がかかっているのかを示すフードマイレージの解説や、エコラベルの実物を交えて食にまつわる環境保全の取り組みの例を紹介しました。

その他の展示として体験型の展示として楽しみながら学べる「SDGs すごろく」、漢字で書かれた鳥の名前の読み方を当てる「クイズわたしはだれでしょう？」などを展示しました。

また、期間中様々なイベントを実施し、多くの方々に来館していただきました。

展示のようす

展示のようす

展示のようす

イベントのようす